■斎藤緑雨　　小説家，評論家。風刺的諧謔的な独特の毒舌家として知られ，自筆の死亡広告を残して肺結核で夭折した。
さいとうりょくう
大政奉還・・1867＝　　伊勢国河曲郡神戸新町で，神戸藩典医斎藤利光の長男に生まれる。母はのぶ。
明治維新・・1868＝ 1歳：

明治6年政変 1873＝ 6歳：

初の民間工場1875＝ 8歳：神戸小学校に入学するが，
三つの反乱・1876＝ **9歳：**一家で上京，本所の藤堂伯爵邸内に住み，
土屋小学校，東洋小学校，江東小学校と，転校を重ね，
大久保暗殺・1878＝11歳：**_藤堂家出入りの永機に俳諧を学び，友人上田万年らと回覧雑誌をつくり，**

・・・・・・1880＝13歳：**_″可笑″の名で，新聞に詩文を投稿し始め，**
明治14年政変1881＝14歳：
府立第一中学，同第二中学，明治義塾を経て，明治法律学校に入学するも，

秩父事件・・1884＝17歳：中退し，**_仮名垣魯文に入門，魯文が主筆の｛今日新聞｝に入社，社主小西義敬に認められる。**
内閣発足・・1885**＝18歳：_｛自由之燈｝に移り，坪内逍遥を訪ねて知遇を得，**
帝国大学始・1886＝19歳：**_｛今日新聞｝に，″江東みどり″の名で，処女小説「善悪押絵羽子板」を発表。**

帝国憲法発布1889＝22歳：**＊″緑雨醒客″の名で｛読売新聞｝に「紅涙」を，″正直正大夫″の名で｛東西新聞｝に，逍遥のパロディ的批評「小説八宗」を発表，早くも，その毒舌ぶりが知られ，**
帝国議会始・1890＝23歳：**_「正直正大夫」「初学小説心得」「小説評注問答」「正直正大夫死す」などを発表して，評判となり，**
足尾鉱毒始・1891＝24歳：来訪した小杉天外と，本所に一戸を借り，二人で住む。**＊″登仙坊″の名で｛国会｝に「油地獄」を連載し，「かくれんぼ」とともに，刊行して代表作となる。**
日清戦争始・1894**＝27歳：_「反古袋」を刊行。｛読売新聞｝に，パロディー批判「文学ひとからげ」を掲載，「新体詩見本」など多数のパロディによって，風刺的諧謔的な独特の批評を展開，毒舌家として知られ，**
日清戦争終・1895＝28歳：**＊｛読売新聞｝に連載の「門三味線」などで，小説家としての地位も確立。**
白馬会・・・1896＝29歳：**_創刊の｛めさまし草｝の匿名合評，森鴎外・幸田露伴との″三人冗語″でも活躍。一葉死去に通夜を営み，**
八幡製鉄始・1897＝30歳：**_「一葉全集」に序文を付して刊行。｛太陽｝に「おぼえ帳」連載，「あま蛙」刊行。馬場孤蝶と初対面。**
子規句歌革新1898＝31歳：**＊｛万朝報｝に入社し，「眼前口頭」を連載。入社した幸徳秋水と親交。「あられ酒」を刊行，**
Bushidou・・1899＝32歳：「わすれ貝」。肺患のため，鵠沼の旅館で療養，金沢タケを知り，
ﾋﾟｱﾉ国産化・1900＝33歳：小田原に，タケと居を構え，
_おびただしい数の警句・箴言で当代の野暮や無秩序をののしってくるも，時流からはずれて行くなか，
教科書疑獄・1902＝35歳：帰京。
日比谷公園・1903**＝36歳：**「みだれ箱」を刊行。本所に，タケと同居。
日露戦争始・1904＝37歳：｛平民新聞｝に「もゝはがき」を連載中，**_自筆の死亡広告を残し，肺結核で，没した。**

「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，山田風太郎「人間臨終図巻」，インターネット，